

# 多摩区区民会議フォーラム

平成25年11月23日(土・祝)に多摩区役所会議室で、第4期多摩区区民会議フォーラムを開催しました。はじめに、これまでに各部会で検討してきた内容を報告し、その後、それぞれの部会に分かれて、区民の皆さんと意見交換を行いました。

## ■コミュニティ部会での主な意見

- ・イベントカレンダーがあればイベント情報を注意して見る機会が増え、参加増も期待できます。
- ・イベントの場所が地図に落とし込まれていると、わかりやすくなります。
- ・市民館デーで、多様な趣味の会があることがわかったため、そのことを情報発信できるしくみができるとよいです。
- ・大人同士があいさつする環境にいる子どもは、自然とあいさつするので、大人からのあいさつが基本です。



## ■自然災害部会での主な意見

- ・身近な防災マップについて、急傾斜地や土砂災害などの危険箇所を記載してはどうでしょうか。
- ・基本的な情報を掲載したものを作成・配布して、それを持って区民が実際にまちを歩き、急傾斜地やその他の危険箇所などを追記してもらえるとよいです。
- ・中・高・大学生との連携について、盆踊りや地域の行事などには協力的に参加してくれています。ただし、大学生は卒業し、他所に引っ越してしまうのが残念です。



# 第4期多摩区区民会議委員・参与

五十音順・敬称略

五十音順・敬称略

第4期多摩区区民会議委員		
氏名	推薦団体 及び 活動団体	部会
安陪 修司	多摩区商店街連合会	自然災害
荒井 精一	市民公募	自然災害(部会長)
○ 石橋 吉章	区長推薦	自然災害
岩崎 宏政	多摩区・3大学連携協議会	自然災害
◎ 大津 努	多摩区社会福祉協議会	コミュニティ
清宮 明	多摩防犯協会	自然災害
国保 久光	川崎市医師会多摩区医師会	コミュニティ
小塚 千津子	多摩区子ども総合支援連携会議	コミュニティ
白井 正壽	セレサ川崎農業協同組合	コミュニティ
辻野 勝行	市民公募	コミュニティ(部会長)
○ 戸高 仁子	かわさきかえるプロジェクト	コミュニティ
西山 英子	多摩区文化協会	コミュニティ
新田 涉世	区長推薦	自然災害
配島 裕美	多摩区地域教育会議	コミュニティ
原田 弘	多摩交通安全協会	自然災害
藤原 司	区長推薦	自然災害
細埜 隆己	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会	自然災害(副部会長)
本多 正典	市民公募	コミュニティ
松本 英嗣	多摩区町会連合会	コミュニティ(副部会長)
吉田 輝久	多摩区自主防災組織連絡協議会	自然災害

※◎は委員長、○は副委員長

区民会議参与	
氏名	
<市議会議員>	
井口 真美	
河野 ゆかり	
斉藤 隆司	
菅原 進	
露木 明美	
橋本 勝	
廣田 健一	
三宅 隆介	
吉沢 章子	
<県議会議員>	
青山 圭一	
土井 りゅうすけ	

平成24年7月にスタートした第4期区民会議では、多摩区をより安全で暮らしやすいまちにするため、コミュニティと自然災害をテーマに課題解決のための調査審議を行ってきました。この2年間の取組の内容をご報告します。

## 区民会議とは— 区民が主体となって地域の課題解決のための調査審議をする会議です

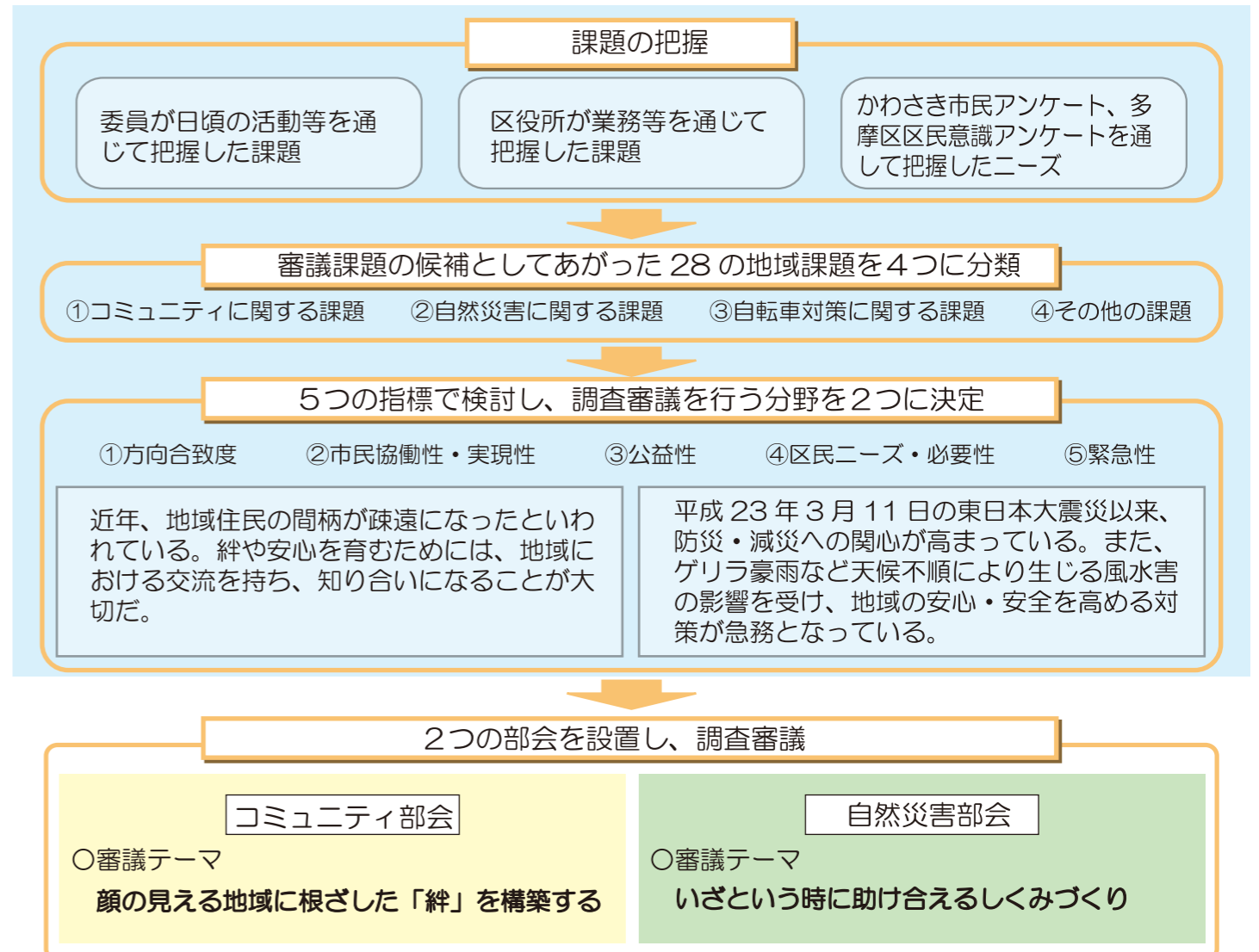


区民会議は、市民が主役の市民自治を確立するために定められた自治基本条例に基づき、平成17年度の試行を経て、平成18年度に各区に条例設置された会議です。

区民会議では、参加及び協働による区における課題の解決を目的として調査審議することとされており、区長及び市長等は、区民会議の調査審議の結果を尊重し、その内容を区における暮らしやすい地域社会の形成及び市政に反映するよう努めることとされています。

## 第4期多摩区区民会議の審議テーマと課題の選定

第4期多摩区区民会議では、以下の手順で審議課題を選定しました。



# 顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する

コミュニティ部会では、地域コミュニティのあり方について調査審議しました。

## ■ 多摩区の現状と課題

### 区コミュニティの現状・課題

- ・地域での人のつながりが希薄です。
- ・高齢者は家に引きこもりがち。子どもたちは地域とふれあう時間が少ない。
- ・交流の試みも一過性に終わるきらいがあります。

### なぜ、絆づくりが必要か

- ・子育て、介護、災害などの困った時に互いに助け合えるコミュニティは、顔見知りの人間関係の中でこそ育まれます。地域の絆がある社会は安心・安全で住みやすい社会です。

課題解決のために…

### 目標

- 地域の活動やイベントに参加してもらうしかけづくりに取り組む
- 地域コミュニケーションの再生をはかる

## ■ 審議の方向性

### 目標① 地域の活動やイベントに参加してもらうしかけづくりに取り組む

#### ● ふれあいの機会に関する情報について

- ・地域に出て来ない人も、地域の中でなんらかの絆を結びあいたいと希望しているのでは？
- ・ふれあいの機会がいつどこで行われているか、情報が身近にあれば、互いに顔見知りになれる可能性が生まれます。
- ・祭事・行事情報を、区民が手軽に入手できるようにすることが求められています。



### めざす方向性

祭事・行事情報を周知する

#### ● ふれあい活動の実施及び実施状況について

- ・地域でふれあいの機会が少ない人々でも、自分の興味・関心があることなら地域に出てきやすくなります。
- ・面白そうだと感じる趣味や活動の機会を提供し、気軽に参加できるしくみを検討する必要があります。
- ・趣味などの既存活動の実施状況の周知についても検討する必要があります。



趣味活動の実施と既存実施活動を周知する

#### ● 出会いから絆づくりへと進める工夫について

- ・区民の多くが興味・関心をもっているであろうテーマに「健康」と「食育」が挙げられます。
- ・「健康」と「食育」に焦点を当てた新たな会合の開催や既存の活動にこれらのテーマを付加することで、健康増進活動、食育運動などの展開が広まり、高齢・長寿の現代生活に適した「絆」づくりへと進む可能性が高まります。



健康・食育をテーマとする活動を展開する

### 目標② 地域コミュニケーションの再生をはかる

#### ● あいさつの必要性について

- ・かつての地域社会では、目礼や声掛けのあいさつによるコミュニケーションがはかられていました。
- ・現在はコミュニケーションの基本であるあいさつの習慣が薄れてきています。
- ・地域で気軽にあいさつを交わすことにより、地域コミュニケーションの再生をはかることが求められています。



### めざす方向性

気軽にあいさつを交わす運動を展開する

# 会議の経過と審議内容 ー自然災害部会ー

平成24年

- 第1回区民会議 (8月30日(木)) 取組テーマのアイデア出し
- 第2回区民会議 (11月6日(火)) 部会及び部会員の決定

- 第1回部会 12月3日 (月)
  - ・ 自然災害を巡る具体的な取組内容、取組方法について、意見交換をしました。

### 「自然災害」勉強会

- 1月17日 (木)
  - 「川崎市の災害対応について～その概要」
  - 1 川崎市の地域防災計画と多摩区地域防災計画について
  - 2 個別の施策について 自助として・共助として・公助として



- 第2回部会 1月25日 (金)
  - ・ 自然災害を巡る具体的な現状と課題について、意見交換をしました。

- 第3回区民会議 (2月12日(火)) 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第3回部会 3月5日 (火)
  - ・ 課題解決に向けた方向性を3つに絞り、「課題解決策」について意見交換をしました。
- 第4回部会 5月13日 (月)
  - ・ 課題解決に向けた具体的な取組と実施主体について、意見交換をしました。

- 第4回区民会議 (5月28日(火)) 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第5回部会 6月21日 (金)
  - ・ 課題解決に向けた具体的な取組の進め方について、意見交換をしました。
- 第6回部会 7月29日 (月)
  - ・ 具体的な取組について、チームに分かれて検討しました。
- 第7回部会 8月22日 (木)
  - ・ 具体的な取組の今後の進め方について、意見交換をしました。

- 第5回区民会議 (9月4日(水)) 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第8回部会 9月19日 (木)
  - ・ 区民会議フォーラムの部会討議の進め方について、意見交換をしました。
  - ・ 2班に分かれて、防災マップを作成しました。
- 第9回部会 10月30日 (水)
  - ・ 区民会議フォーラムの部会討議の進め方について、意見交換をしました。

- 第6回区民会議 (11月12日(火)) 区民会議フォーラムの内容確認

- 第4期多摩区区民会議フォーラムの開催
  - ・ 開催日：11月23日 (土・祝) ・プログラム：2つのテーマの検討内容の全体説明、テーマ別意見交換

- 第10回部会 1月20日 (月)
- 第11回部会 2月25日 (火)
  - ・ 第4期多摩区区民会議報告書の内容について、意見交換をしました。

- 第7回区民会議 (3月17日(月)) 第4期多摩区区民会議の報告について

平成26年

# 会議の経過と審議内容 —コミュニティ部会—

平成24年

- 第1回区民会議（8月30日(木)） 取組テーマのアイデア出し
- 第2回区民会議（11月6日(火)） 部会及び部会員の決定

- 第1回部会 12月5日（水）
- ・コミュニティを巡る具体的な取組内容、取組方法について、意見交換をしました。

## こども文化センター現況調査

- 1月16日(水) 中野島こども文化センター、菅こども文化センター
- 1月17日(木) 三田こども文化センター、錦ヶ丘こども文化センター



- 第2回部会 1月28日（月）
- ・コミュニティを巡る具体的な現状と課題について、意見交換をしました。

- 第3回区民会議（2月12日(火)） 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第3回部会 3月11日（月）
- ・課題解決に向けた方向性を2つに絞り、「課題解決策」について意見交換をしました。
- 第4回部会 5月15日（水）
- ・課題解決に向けた具体的な取組と実施主体について、意見交換をしました。

- 第4回区民会議（5月28日(火)） 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第5回部会 6月28日（金）
- ・4つの具体的な取組について意見交換をし、「市民館デー」に参加することを決定しました。
- 第6回部会 7月26日（金）
- ・4つの具体的な取組について、意見交換をしました。
- ・「市民館デー」の参加内容について意見交換をしました。
- 第7回部会 8月19日（月）
- ・4つの具体的な取組の今後の進め方について、意見交換をしました。

## 市民館デーへの参加

- ・開催日：8月25日（日） ・プログラム：囲碁将棋、マジックによるふれあい活動のシミュレーション

- 第5回区民会議（9月4日(水)） 各部会の検討経過報告と全体での意見交換

- 第8回部会 9月24日（火）
- 第9回部会 10月29日（火）
- ・区民会議フォーラムの部会討議の進め方について、意見交換をしました。

## 「食育の秋 in よみうりランド」の現地調査

- ・開催日：11月2日（土） ・プログラム：里芋掘り、生産者による食育講話、芋煮試食

- 第6回区民会議（11月12日(火)） 区民会議フォーラムの内容確認

## 第4期多摩区区民会議フォーラムの開催

- ・開催日：11月23日（土・祝） ・プログラム：2つのテーマの検討内容の全体説明、テーマ別意見交換

- 第10回部会 1月17日（金）
- 第11回部会 2月26日（水）
- ・第4期多摩区区民会議報告書の内容について、意見交換をしました。

- 第7回区民会議（3月17日(月)） 第4期多摩区区民会議の報告について

平成25年

平成26年

# 区民会議からの提言

## 提言 1 地域の活動やイベントに参加してもらうしかけづくりに取り組む

### ○イベントカレンダーの作成

- ・地域、商店街、大学、行政及び民間活動団体などの祭事・行事に関する情報を収集します。

### <作成時の注意事項>

- ・イベントカレンダーへの掲載方針・基準を決め情報を選択し、媒体の選択及び周知方法、情報の更新方法などを検討します。
- ・町内会・自治会の祭事・行事の中には、当該町内会・自治会の住民のみを対象としているもの

もあり、注意書きを載せるなど掲載には配慮が必要です。

- ・イベントカレンダーには、趣味活動を行っている施設、活動内容などの情報掲載も検討します。

### ○健康・食育をテーマとする活動の支援

- ・健康・食育については多くの区民が関心を持っているため、既存のさまざまな活動に対してこのテーマに関する話し合い、ワークショップなどの活動を組み込む支援を検討します。

## 提言 2 地域コミュニケーションの再生をはかる

### ○あいさつ運動の展開

- ・区内で出会った人々が元気にあいさつを交わしあう運動を展開します。
- たとえば区内のさまざまな団体・組織・集団の実態に合わせ、あいさつデー、あいさつ週間、

あいさつ月間、あいさつ標語・川柳・ことわざづくりの募集など、あいさつが積極的に楽しく行われるような運動推進をはかります。

## コミュニティ部会での取組

### 趣味によるふれあいの機会創出

#### 【市民館デーふれあいの機会創出シミュレーション】

市民館は多くの区民が趣味などの活動に利用している施設です。そこで市民館の活動周知イベント「市民館デー」に区民会議として参加し、趣味活動を実施してふれあいの機会創出のシミュレーションを実施しました。

当日は、1階ロビーでプログラムを宣伝するチラシを配布し、会議室に囲碁将棋セット各5組、カードマジック用トランプカード10数組を用意しました。30人の参加者があり、なごやかな交流が生まれました。



ふれあいシミュレーションの様子

### 健康・食育をテーマとする活動の展開

#### 【「食育の秋 in よみうりランド」事業調査】

このテーマは、多摩区内の農業生産に携わる人々と連携し、農を切口に健康・食育を考える活動を広めることによってさまざまなふれあい活動が展開されるのではないかと検討してきました。

多摩区では健康・食育をテーマとした事業「食育の秋 in よみうりランド」が実施されています。これは、地域生産農家、JAセレサ川崎菅支店、菅町会、よみうりランド、多摩区保健福祉センターが協働で開催しているもので、多面的な食育体験によって区民のふれあいの機会をつくろうという事業です。

そこで、コミュニティ部会では、この事業を現地調査しました。



「食育の秋 in よみうりランド」の様子

# いざという時に助け合えるしくみづくり

自然災害部会では、自然災害が発生した場合の対応について調査審議しました。

## ■ 多摩区の現状と課題

### 助け合いのしくみの現状・課題

- ・東日本大震災以後防災は喫緊の課題です。
- ・区民の中には、防災に対する危機意識、自助、共助の意識が弱い人もいます。

### なぜ、助け合えるしくみが必要か

- ・発災直後は公助による支援は期待ができず、自助、共助による助け合いが必要です。
- ・多摩区には3つの大学があるなど、多摩区の特徴を生かした助け合いのしくみづくりが可能です。

課題解決のために…

### 目標

- 自然災害に関する情報を周知する
- 誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくる
- 防災に関して中・高・大学生との連携をはかる

## ■ 審議の方向性

### 目標① 自然災害に関する情報を周知する

#### ● 各家庭の防災意識の向上について

- ・“自助”の基礎となる各家庭で、防災について話し合うことが、防災意識の向上に結びつきます。
- ・避難所の位置や、非常時の持ち出し品等を記入する様式を各戸に配布し防災について話し合う機会を提供します。

#### ● より効果の高い情報提供のあり方について

- ・回覧板等を活用し、被害想定等を踏まえた、具体的な情報を繰り返し提供することが有効です。

### めざす方向性

家族で防災について話し合う機会を提供するとともに、各家庭が震災時に必要な情報を掲示するしくみをつくる

災害時に役立つ具体的な情報を効果的に発信するしくみをつくる

### 目標② 誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくる

#### ● 避難所の周知について

- ・各自の避難所の周知には、常に目に付く場所に避難所名を掲示することが必要です。
- ・区内に多数存在する町内会・自治会掲示板、行政が設置する広報掲示板を活用することは効果的と考えられます。

#### ● 避難所までの行き方について

- ・迷うことなく、安全に避難所にたどり着くためには、避難所までのルートや、周辺の施設、危険箇所などを把握しておくことが必要です。
- ・小学校区（避難所単位）など限られたエリアで、必要な情報を掲載した地図が求められます。

### めざす方向性

日ごろから、誰の目にも付く場所への避難所名を掲示する

各自が避難所までのルートや危険箇所を把握し、災害時に迷わず安全に避難所までたどり着けるしくみをつくる

### 目標③ 防災に関して中・高・大学生との連携をはかる

#### ● 中・高・大学生の防災意識の向上について

- ・発災の時間帯によっては、子どもや学生、お年寄りしか地域に残っていない場合もあります。
- ・災害時に中・高・大学生などに活躍してもらうために防災情報を周知し、地域の防災のしくみを理解してもらうことが求められます。

#### ● 平常時からの中・高・大学生との連携について

- ・大学生は大学を卒業し、他所に引っ越してしまうなど地域とのつながりが薄いとされています。
- ・これらの学生との連携を深めるためには、平常時からの交流が必要です。

### めざす方向性

中・高・大学生に向けて、防災情報を発信するとともに、地域の防災のしくみを知り、協力できるしくみをつくる

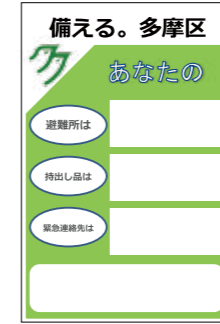
日ごろから中・高・大学生と地域が防災に関して連携できるしくみをつくる

# 区民会議からの提言

## 提言 1 自然災害に関する情報を周知する

### ○マグネット方式「備える。多摩区」の作成

- ・災害時の避難場所、持ち出し品、緊急連絡先等を記入し、冷蔵庫やドアの内側に掲示できる、マグネット方式の「備える。多摩区」を作成し、各戸に配布します。
- ・記入内容を家族で話し合うことで防災について考える契機とし、いざという時に慌てずにすむような情報の周知が可能です。



マグネット方式のイメージ

### ○回覧板を活用した防災情報の提供

- ・回覧板を活用し、回覧するエリアに応じた、具体的で、災害時に役立つ情報を掲載します。
- ・具体的な掲載内容については、掲載箇所や掲載スペースを踏まえた検討が必要です。
- ・防災用品を製造・販売する業者や公共・公益団体等に広報を兼ねた作成をお願いする等、作成手法についても検討が必要です。

## 提言 2 誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくる

### ○町内会・自治会掲示板、川崎市広報掲示板への避難所の掲示

- ・町内会・自治会掲示板、川崎市広報掲示板の空いたスペースを活用し、その地域の避難所名を掲示します。



### ○身近な防災マップの作成

- ・避難所までのルートや公共施設、危険箇所などを掲載した「身近な防災マップ」を作成し、各戸に配布します。
- ・「身近な防災マップ」をもとに、各家庭、自主防災組織などを単位として実際に避難所まで歩くことで掲載内容を充実するとともに、避難所の位置や施設の機能を確認します。



防災マップ下地づくりの様子

## 提言 3 防災に関して中・高・大学生との連携をはかる

### ○中・高・大学生の防災訓練への参加

- ・自然災害に対する危機意識を高めてもらうとともに地域との連携を深めてもらうために、防災訓練への参加を呼びかけます。

### ○中・高・大学生の図上訓練への参加

- ・避難所運営ゲーム（HUG）などの図上訓練を体験することで、避難所生活のイメージを持ってもらうとともに、避難所での地域と生徒・学生の連携のあり方や役割について検討します。

### ○中・高・大学生向け防災パンフレットの作成

- ・中・高・大学生を対象とした防災パンフレットや教本を作成します。
- ・学校を通じて配布する他、各大学で開催される学園祭に参加し、防災に関する情報を周知するなど、効果的な活用をはかります。



HUGの実施の様子